

勝林寺

い今までずっとこのことばの意味が、  
こわかりしないままに過ごしてまいりました。  
した。  
こんなことばです。

人ガ悪ナイ ワガ身ガ悪イ  
破レ車ノ ワガ悪イ

「一輪の車輪が悪い」というのですから、これはおそらく、ガタヒシ壊れた車は、「肝心の車輪一輪」が悪いので、そんなひすんだゆがんだ『輪』の『我』が身であるからして、そんな我身のすることとなすこと、三業の所修しよう。しかし過ごせないのだ——というのでしょ。

人が悪い  
われが身が悪い  
わが悪い

このことはは、私の母かいづむ「癌の  
ようにいっていたことばです。  
この二月三日は母の五十五回目の生日

母はやっぱり古いおんなであつたのだ

て、辛苦抱のなかに耐え忍んで生きねばならなかつたのであろうか。

違いない  
しかし幼い私の印象では、母は案外と  
楽天的で明るい人であつたようだ。  
その母のことばである。



兵庫教区門徒総代会  
一泊研修△云々

龜井  
幸男

他人を憎むのは  
自分を憎むのと  
同じだ

如来さまの慈眼（じげん）—慈悲のまなこ  
に見抜かれ、そして見守られている、そ  
の慚愧（さんき）と歡喜（かんき）とを、母  
はこんなことばで毎日言つていたのであ  
ろうか。

ちよつとこわかりしないながら、五十年以上立ったいま、なんだかあの母のことばのこころが偲ばれるような気がしてくる。

**教区**（兵庫県と岡山県の東部）内三十九組から九六名の総代が参考集しました。出石組からは多田実会長のほか五名が出席されました。

研修会はまず小瀧了信教務所長のあいさつからはじまり、ついで都呂須孝文先生の「門徒総代の役割と責務」と題した基調講義がありました。その基調講義に基づいて午後三時半から分科会にはいりましたが、そのはじめに応供乗生先生より「分科会のもちかた」についてのご指導がありました。

八班にわかれての分科会の討議テーマは①聞法の場としての寺院の機能を發揮するためはどうすればよいか。②総代としての悩みと願望。③総代として今なにをなすべきか。というものでありました。

わたしは①のチームの班で、十二名の人達と車座になつて七〇分間真剣に熱心に話し合いをいたしました。

この話し合いのなかから結果として次のようないい意がうまれました。イ、住職と総代とは車の両輪のようなもの。常時緊密に接触交流を保つなかでご法義護持に励まねばならない。ロ、若い人がよろこんで寺におまいりできるような寺づくりを総代として工夫しなければならないハ、そのためには、たとえば仏前結婚式や初参式の奨励、葬儀のありかたの近代化など具体的なとりくみを始めなければなりません。などと、いうものでした。

翌日都呂須先生から「まとめ」の講義があり、質疑応答の全体討議があつて全行程を終わりました。

わたしはこの二日間の研修のなかで、講義を通じ、またそれよりも総代仲間との話し合いなかで強くこころにのこったことがありました。それはわたしたち門信徒はみな阿弥陀如来を親にもつた家族御同朋。なにごとも人ごととして見過ごせない、人の苦しみは自分の苦しみとして、お念佛のなかでここ

彼岸会

またまた湾岸戦争などという悲しい争いが起こってしました。我・他・彼・此の対立を吹き消し（二ルバーナ涅槃）超えて、だれもが「出会える」彼の星を願う法会が彼星会です

おそろいでお参り下さい。

3月24日 午後2時より

## 三月のこよみ

二日	足立富喜夫氏宅法事
三日	谷垣なつ子氏宅法事
四日	谷垣律夫氏宅忌明
五日	ご本山会議
六日	清水儀一氏宅法事
七日	中山隆雄氏宅法事
八日	出石組『法輪会』 <small>光跡寺</small>
九日	岩山酒一郎氏宅法事
一〇日	倉吉妙寂寺彼岸会法事
一一日	同じ
一二日	二四日
一三日	彼岸会法要
一四日	仏壯仏婦合同役員会
一五日	みのりを聞く会
一六日	玉井啓介氏宅祥月
一七日	姫路養泉寺報恩講
一八日	同寺落慶法要

ろの通いあうきょうだいであつたのだと  
いうことでした。わたしはこの感動のな  
かでまず聞法にはげむと共に、わたし  
に精一杯、伝道教化にも努めさせてい  
ただきたいと、強くこころに誓つたこと  
でありました。





## 平成3年度代議員会

おわる

て経常費会計の補填に充て、総代会において更生予算を編成して執行すること

「明年度において経常費割りの値上げを行う」

### 一一、古向堺の改修工事

出石町の内町地区町並づくり計画のなかで勝林寺の高塀の改装を考えねばならぬが、その時期や補助金など不確定要素もある。総代会において臨機応変、機敏に対応してほしい。経費は基本会計で

行う

2月17日、まず午前中に理事会をひらいて総会提出議案をねりました。そのうえ午後1時から総会がひらかれました。

2月17日、まず午前中に理事会をひらいて総会提出議案をねりました。そのうえ午後1時から総会がひらかれました。

2月11日、あいにく寒風ふきすさぶ朝でしたが、本堂会場にはほとんど欠席者なく熱氣あふれた議案討議がおこなわれました。

「議案概要(寺報臨時号)」が1月末に全戸配布してあったことと、永井貞雄議長のみごとな裁量もあって、会議は円滑かつ能率的に実効をあげておわりました。

代議員会で特にとりあげられた問題は次ぎの三つでありました。

### 一、収支予算費△云計の運用について

平成二年度の行事の経過ならびに諸会計の決算報告が行われた後、監査委員より次のような報告がありました。

「経常費割りは昭和五九年以來据え置きになったままであり、したがって今や経常費会計は運用不可能な状態にある。経理者(住職)の補填によって運ばれているのが実態である。明年から経常費割りを少なくとも一割五分程度の値上げが必要」

この監査報告をうけて代議員会は諸決算を報告の通り承認しましたが、平成三年度の予算案についてかなりな討議がおこなわれました。

結論として

「前年度通りの会計規模で組まれて出されていくこの予算案を一応認めて執行する。基本財産会計の今年度利息分をもつこなれました。」

経費は一万円。(納骨懇意は別)  
旅程(出石→京都→本山参拝→大谷本廟  
納骨式→比叡山参拝→出石)

日帰りです。  
全但バス一台。

### 評議員会ひらく



例年行ってまいりました「研修旅行」。坊守様の入院のこともあって昨年から保留されています。しかしそれに変わる研修を考えたいと思いました。

また例年あります出石組の念佛奉仕団(その時納骨をしていました)は、四月ご本山への団体参拝がある関係からありません。勝林寺単独の納骨をしたいと思っています。

こんな都合で仏事仏婦相談のうえつきの様に決定しました。

納骨のご遺族は勿論ですが大勢ご参加ください。詳しいことは後日連絡します。

### 大谷本廟(納骨)参拝研修

6月8日(土)に実施

年間の行動方針「努力目標」を決めました。☆「みのりを聞く会」に積極的に参加しようとあります。(まず聞法という原点に)

☆会員の拡大にむけて活動しよう。(法のよろこびを友に伝えよう)

☆「仏教とボランティア」を学習し実践しよう。

行事のうち「大谷本廟参拝研修」のことを決めました。(別に掲載)

新しい役員を次ぎのように決めました。

会長 永井 龍雄氏  
副会長 大石 正和氏  
会計事務局 亀井 孝氏  
会員 中嶋 武志氏  
会員 斎藤 保氏  
会員 横山 弘三氏  
会員 数森 昭氏  
会員 宮嶋 千秋氏  
会員 平野 稔氏  
会員 永井孝一郎氏  
会員 千秋氏

### 病床だより



病院の個室にずっと住まわせていただいているわたしには、寒さも雪のつらさも分かりません。申し訳ないことです。枕元のテレビで気候のことや世間のことごとも教えてはもらえますが、やはり映像からはほんとうのこころがつたわっては参りません。雪のこころ春の心、そんななつめたさもあたたかさも伝わらない

ものが、その恐ろしさが私なりにわかるよしみも悲しみも写らないテレビ映像の中でもおこなわれているということを聞きました。

なんでも最近の戦争は、一人一人の苦しみも悲しみも写らないテレビ映像の中でもおこなわれていることがあります。中で寺のことも案ぜられるこのごろです。

どうかよろしくお願ひします。

おつとめの後、ご院家さまからご法話をいただきました。

女性差別の風土のなかで結婚なさいたしました。

親鸞さまと恵信尼さまとの本当の愛情のありかたをお手本にして、私たちの夫婦・親子の人間関係を顧みたいというお話をしました。

会務や会計の報告、それに今後一年の計画などの提案と話し合いが行われました。

そのなかで、『勝林寺寺報』を自分もよみ人にも広げていこうということや「みのりを聞く会」にお参りしようという呼びかけもされました。

テレホン法話もきいてほしいということを中心に広げていこうとすることや「みのりを聞く会」にお参りしようというすすめもされました。

とにかくまず努力しておみのりにあわせていたくことが大事なことということを聞いていただきました。

2月11日に実施したグーナ敬老訪問について富嶋会長さまから大変よろこばれたというご報告がありました。またこのについて老人のご様子などの情報をもらせてほしいというお願いも出されました。